

ちくこ 筑後川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

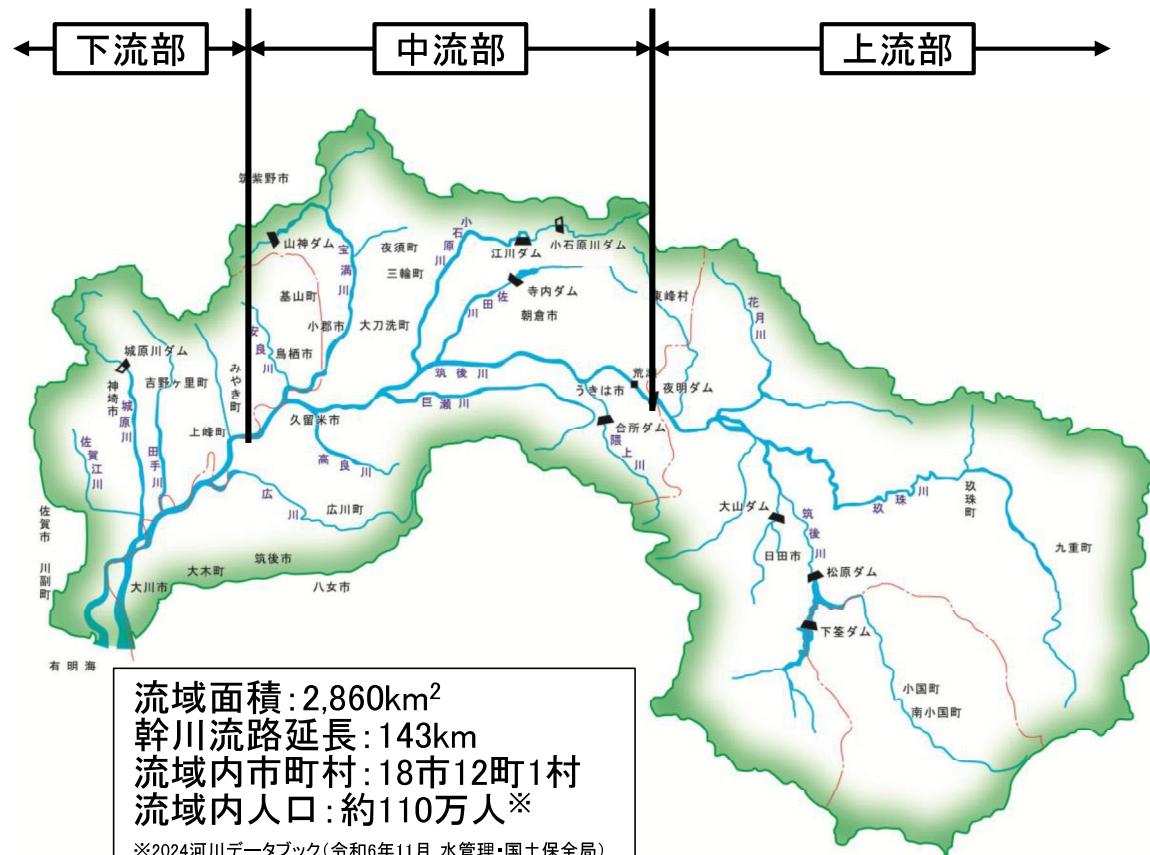


1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

流域の概要

- ▶ 筑後川の源は熊本県阿蘇郡瀬の本高原に発し、流域は熊本県、大分県、福岡県、及び佐賀県の4県にまたがる。上流域に日田市、中流域に久留米市及び鳥栖市、下流域に大川市及び佐賀市等の主要都市があることから、九州北部における社会、経済及び文化活動の基盤をなし、古くから人々の生活及び文化と深い結びつきを持っている。



<上流部(夜明ダム～上流端)>

- ◆ 日田美林として知られるスギやヒノキからなる森林に恵まれた山間渓谷を形成している。

<中流部(筑後大堰～夜明ダム下流)>

- ◆ 巨瀬川合流点から夜明峡谷までの区間は、九州を代表する穀倉地帯である筑紫平野を緩やかに蛇行しながら流下している。瀬、淵、ワンド及び河原等の多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を形成している。

<下流部(河口～筑後大堰)>

- ◆ 広大な沖積平野及び干拓地の中を大きく蛇行しながら有明海へと注いでいる。国内最大の干満差の影響を受け約23kmに及ぶ長い区間が汽水域となり、広大な干潟が形成されている。多様な生物が生息・生育する「有明海および筑後川河口」は、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地『重要湿地』(有明海および筑後川河口)」に認定されている。

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域開発の状況

- 気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、これまでの治水対策に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働して、水害を軽減させる治水対策、「流域治水」へと転換し、ハード・ソフト一体の対策に取り組むため、令和2年9月に「筑後川流域治水協議会」を設立、「筑後川流域治水プロジェクト2.0」を策定し流域治水対策を推進している。
- 今後短期的な取組として進める「大石地区かわまちづくり」では概ね10年間で賑わいのある水辺を創出するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進することとしている。



*具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域開発の状況

- 久留米市は、「久留米市都市計画マスタープラン(R2改定)」にて、市を流れる筑後川の河川空間を、市民が利用できる水辺のレクリエーション拠点として活用することを目的に、かわまちづくり支援制度を活用したリバーサイドパーク(宮ノ陣地区)の整備を実施し、現在では市街部の貴重なオープンスペースとして、市民の憩いの場となっている。
- うきは市は、「第2次うきは市総合計画 後期基本計画 R3～R7(R3.3策定)」にて、筑後川を耳納連山とともに市のランドマークとなるシンボルとして位置付けており、筑後川の自然景観や自然環境を観光資源の一つとして活用や保全を推進していくこととし、筑後川温泉と河川をつなぐ市道の整備が行われた。



リバーサイドパーク(久留米市/宮ノ陣地区)



市道の整備(うきは市/大石地区)

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2) 地域の協力体制/久留米市街部地区

- 平成26年8月に地域住民代表、久留米市及び国土交通省により構成された「筑後川(宮ノ陣校区)かわまちづくり協議会」が設立され、整備内容、利活用、維持管理等に関する議論を経て、日常的な施設管理、清掃等が実施されている。
- 平成31年3月に地域住民代表、地域団体、久留米市、国土交通省により構成された「筑後川の水辺空間を活用した賑わいづくり実証実験推進協議会」が設立され、河川敷地占用許可準則第22による、都市・地域再生等利用区域の指定を目標とする実証実験を対岸の合川地区と連携し実施している。
- 整備後は日常的な散策、高水敷を活用したスポーツやイベント開催の場として利用されており、今後も多様な利活用が見込まれる。



筑後川の水辺空間を活用した賑わいづくり
実証実験推進協議会(令和6年7月10日)



宮ノ陣筑後川防災キャンプ
(キャンプ、音楽ライブ、防災クイズ等)
(令和6年6月17日、70人)



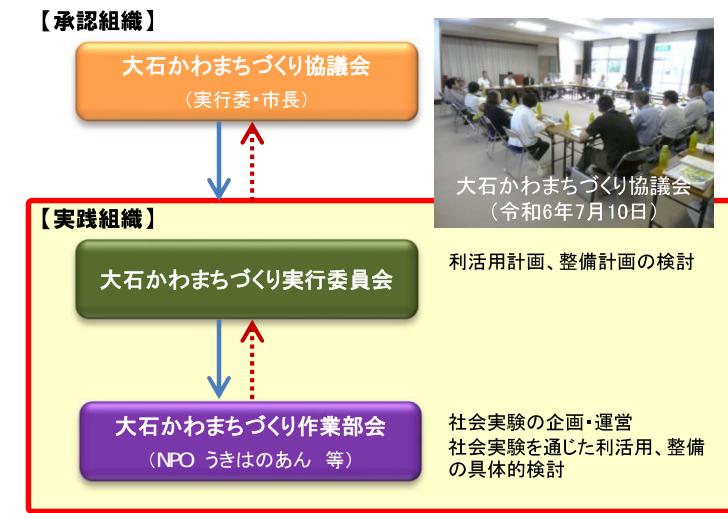
スポーツイベント
(グラウンドゴルフ、ストライクアウト等)
(令和元年9月29日、50人)

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2) 地域の協力体制/大石地区

- 平成30年8月に地域住民・うきは市・国土交通省等により構成された「大石かわまちづくり実行委員会」、平成30年11月には、「大石かわまちづくり協議会」を立ち上げ、かわまちづくり計画の検討を進め、令和2年3月にかわまちづくり支援制度に「大石かわまちづくり」が新規登録された。
- かわまちづくり支援制度の登録後も、整備内容や周辺の利活用、維持管理に関する協議を継続的に開催する予定としており、今後も引き続き地域の協力が見込まれる。
- 令和元年9月からは「大石かわまちづくり作業部会」や地元団体の企画のもと、音楽ライブを中心としたイベントや、キャンプイベント、カヌーイベントなどを継続的に開催している。今後も、地域の若い世代の方々や温泉関係者等を加え、地域が連携した多様な利活用メニューを実践していく予定である。



組織体制図



ティラノサウルスレース、マルシェ
(大石堰駅伝競走大会・親子凧揚げ大会に併せ実施)
(令和7年1月19日、650人参加)



うきは大石かわまちフェスタ2024(カヌー、
水辺の安全教室、川遊び等)
(令和6年8月18日、80名参加)

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3) 関連事業との整合

【久留米市新総合計画 第4次基本計画(令和2~7年度)/R2.3策定】

- 地域の特性を生かした効果的な緑化整備や、河川を活用した水辺空間の創出など、風情ある四季を体感することができる空間づくりを進めるとともに、市民や事業者との協働による花と緑の創出や保全に取り組む。

【久留米市都市計画マスタープラン/R2.3改定】

- 地域住民の憩いとなる市民ニーズに対応した身近な公園づくりを推進し、かわまちづくり支援制度を活用したリバーサイドパーク(宮の陣地区)の整備を進める。

【第2次うきは市総合計画 後期基本計画(令和3~7年度)/R3.3策定】

- 筑後川や豊かな自然、歴史、文化などの観光資源を活用した観光振興に取組み、市内を訪れる観光客の誘客促進に努める。

基本目標2 活力にあふれ、まち全体がにぎわっています

第4章 多くの観光客でにぎわっています（観光・イベント）

施策の今とこれから

現況と課題

- フルーツ王国や耳納連山、筑後川。棚田、白壁の町並みなど豊かな観光資源を有しており、さらなる地域資源の掘り起しが求められています。
- 一般社団法人うきは観光みらいづくり公社を設立して観光（DMO）推進体制を強化しており、観光振興の深化が重要になっています。
- うきは祭りは、木育広場イベントなどの新しい企画を取り入れることで親子での参加が増えており、今後も幅広い集客対策が必要です。

施策の内容

- 1 地域資源を活用した観光振興
 - 観光団体等と連携し、豊かな自然や歴史、文化、森林環境などの地域資源を活用した観光振興に取り組み、市内を訪れる観光客の誘客促進に努めます。
- 2 観光客の受入体制の整備
 - 新型コロナウイルスの影響により変化する観光のありかたを注視し、社会状況に即した新たな受入体制づくりを推進します。
- 3 観光資源の磨き上げ
 - 観光資源について掘り起こと磨き上げを行い、特徴のある観光ルートの開発や特産品、土産品等の開発など新たな魅力づくりを促進します。
 - 近隣の地域と連携し、広域観光を推進します。
- 4 効果的な情報発信
 - SNS等を活用し、効果的な情報発信を行って観光誘客を図ります。

第2次うきは市総合計画 後期基本計画

第1節 四季と歴史が見えるまち

久留米市の都市の個性である雄大な自然景観に市民が誇りと愛着を持ち、暮らしの中に質の高い緑化空間や水辺に親しむ空間が創出された、自然豊かで季節感あふれる都市を目指します。また、郷土の歴史を未来へつなぐ、地域の史跡や伝行事などの魅力的で豊かな資源が大切に受け継がれ、まちづくりの文化に根付いた歴史都市を目指します。

施策の内容

I 季節感あふれる水と緑の空間の創出

地域の特性を生かした効果的な緑化整備や、河川を活用した水辺空間の創出など、風情ある四季を体感することができる空間づくりを進めるとともに、市民や事業者との協働による花と緑の創出や保全に取り組みます。また、地域の魅力向上と活性化を促すために、地域ごとに特色のある花や緑にあふれた豊かな景観を保全するとともに、効果的な情報発信に取り組みます。

II 魅力ある歴史資源の活用

歴史資源の適正な保存と効果的な活用のために、収蔵や展示環境の充実を図るとともに、魅力的な歴史ストーリーを構成するなど、市民が郷土の歴史や文化に触れ、体感することができる機会の創出に取り組みます。また、市民や観光客の関心を高めるため、地域との協働により、歴史資源を生かした観光プログラムの構築や充実、国内外に向けた効果的な情報発信に取り組みます。

久留米市新総合計画 第4次基本計画

② 公園の整備

- 地域住民の憩いとなる市民ニーズに対応した身近な公園づくりを推進します。
- かわまちづくり支援制度を活用したリバーサイドパーク（宮の陣地区）の整備を進めます。

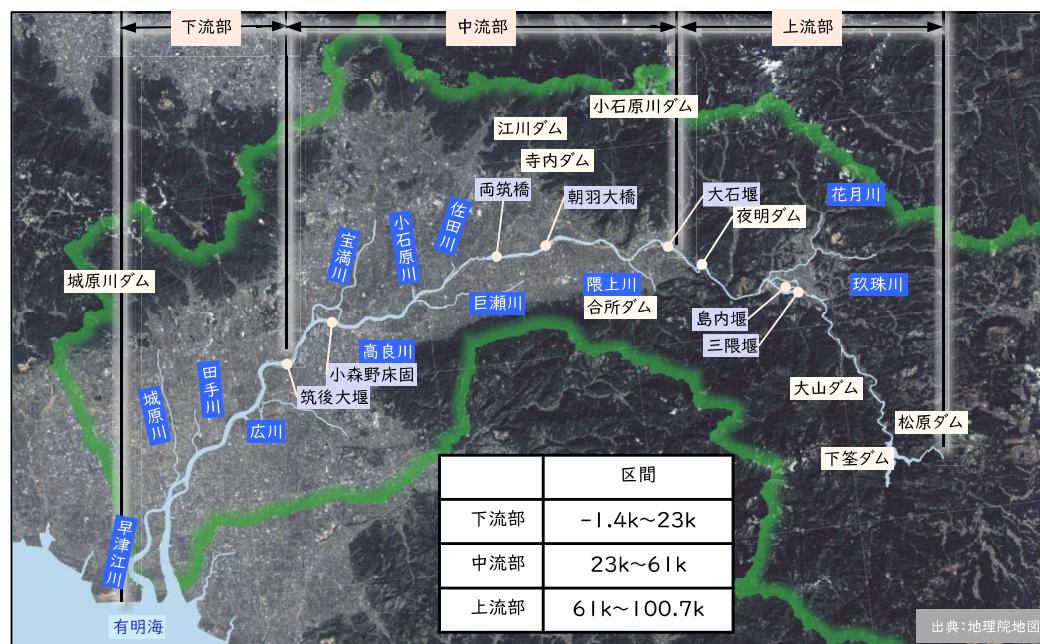
久留米市都市計画マスタープラン

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(4) 河川環境をとりまく状況

- 筑後川には様々な貴重種が生息しており、上流部には、絶滅危惧種のヤマセミ、カワムツ、アユ等が生息する。中流部には、絶滅危惧種のオヤニラミ、コアジサシやセボシタビラ等が生息する。下流部には、絶滅危惧種のエツ・アリアケシラウオ・アリアケヒメシラウオ等が生息する。
- 筑後川はアユやエツの生息場、産卵場となっており、アユ釣り・鵜飼い・エツ漁等、地域の観光資源となっている。



1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(5) 河川の利用状況

- 筑後川は、松原・下筌ダム等の湖面を利用した遊覧船運航や地域交流のイベント、日田温泉・筑後川温泉及び原鶴温泉等の観光地における屋形船、アユ釣り、鵜飼い、河川敷や堤防における散策やスポーツ、マラソン大会、花火大会、河川内における水上スポーツ、カヌー等の練習、下流でのエツ漁等、多岐に利用されている。
- 筑後川は、住民団体や小中学生による生物調査や水質調査等の環境学習活動の場として利用されており、くるめウス等の防災施設を平常時に活用し、情報発信、学習支援及び交流促進を推進している。



湖面を利用した遊覧船(松原ダム)



屋形船(日田市)



散策(うきは市)



筑後川花火大会(久留米市)



エツ漁(大川市)



環境学習活動(久留米市/防災施設くるめウス)

1. 事業の必要性

②事業の投資効果

(1) 費用対効果分析(水系全体)

項目	前回評価時(令和2年度)	今回評価時(令和7年度)	変更理由
総事業費	約63.2億円 【水辺整備】 城島地区(H16年度～H18年度)：約 1.3億円 日田地区(H17年度～H22年度)：約 9.5億円 合川地区(H19年度～H21年度)：約 2.9億円 久留米市街部地区(H27年度～R4年度)：約 1.4億円 大石地区(R3年度～R12年度)：約 6.8億円 【水環境整備】 松原・下筌ダム (H5年度～H25年度)：約41.2億円	約7.0億円 【水辺整備】 久留米市街部地区(H27年度～R4年度)：約 1.2億円 大石地区(R3年度～R11年度)：約 5.7億円	完了評価済み整備事業の事業計画からの除外による事業費の削減及び便益の変更 集計世帯数の更新による便益の変更
事業完了年	令和12年度	令和11年度	現在価値化による更新
B/C	2.7	13.0	
B(便益)	379.8億円	125.4億円	C(費用)の算出の際に工事諸費を控除
C(費用)	139.7億円	9.6億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせることにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせることにより算出する。

※令和7年度より、工事諸費を除いた額を「C(費用)」として算出

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

(2)費用対効果等

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	7.0億円	—	125.4億円 ※社会的割引率 2%の場合: 177.4億円 1%の場合: 217.4億円	9.6億円 ※社会的割引率 2%の場合: 10.9億円 1%の場合: 12.0億円	13.0 ※社会的割引率 2%の場合: 16.3 1%の場合: 18.2
完了箇所	1.2億円	—	103.7億円	2.1億円	50.4
久留米市街部地区	1.2億円	高水敷整正、管理用通路	103.7億円	2.1億円	50.4
継続箇所	5.7億円	—	21.7億円	7.6億円	2.9
大石地区	5.7億円	高水敷整正、管理用通路、坂路	21.7億円	7.6億円	2.9
残事業	0.2億円	—	0.6億円	0.2億円	3.4
継続箇所	0.2億円	—	0.6億円	0.2億円	3.4
大石地区	0.2億円	(モニタリング調査等)	0.6億円	0.2億円	3.4

	アンケート実施年度	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計世帯数	支払い意思額
久留米市街部地区	令和6年度	26,402	410	半径10km圏内	197,423	181円(月・世帯)
大石地区	令和2年度	2,000	350	半径10km圏内	29,600	332円(月・世帯)

1. 事業の必要性

②事業の投資効果

①CVM手法による便益の算出

約125.4億円(良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等)

②地域資源を活かした教育効果

筑後川周辺の資源(防災施設くるめウス、大石堰等)を活かしたイベントや学習会の実施、筑後川と周辺地域を一体的に活用することによる地域への愛着の醸成

P4,5,6

③地域のにぎわいの創出

地域の既存イベントや新たな水辺イベントの開催の場の提供による地域活動の増進

P14,16

④治水安全性の向上

河川利用者の安全性・利便性向上、巡視・管理の円滑化

P14,16

⑤良好な自然環境の保全

地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動

河川を活用した環境学習

P14,16

⑥費用対効果分析(算定に用いた効果)

全体事業(B/C) : 13.0

残事業 (B/C) : 3.4

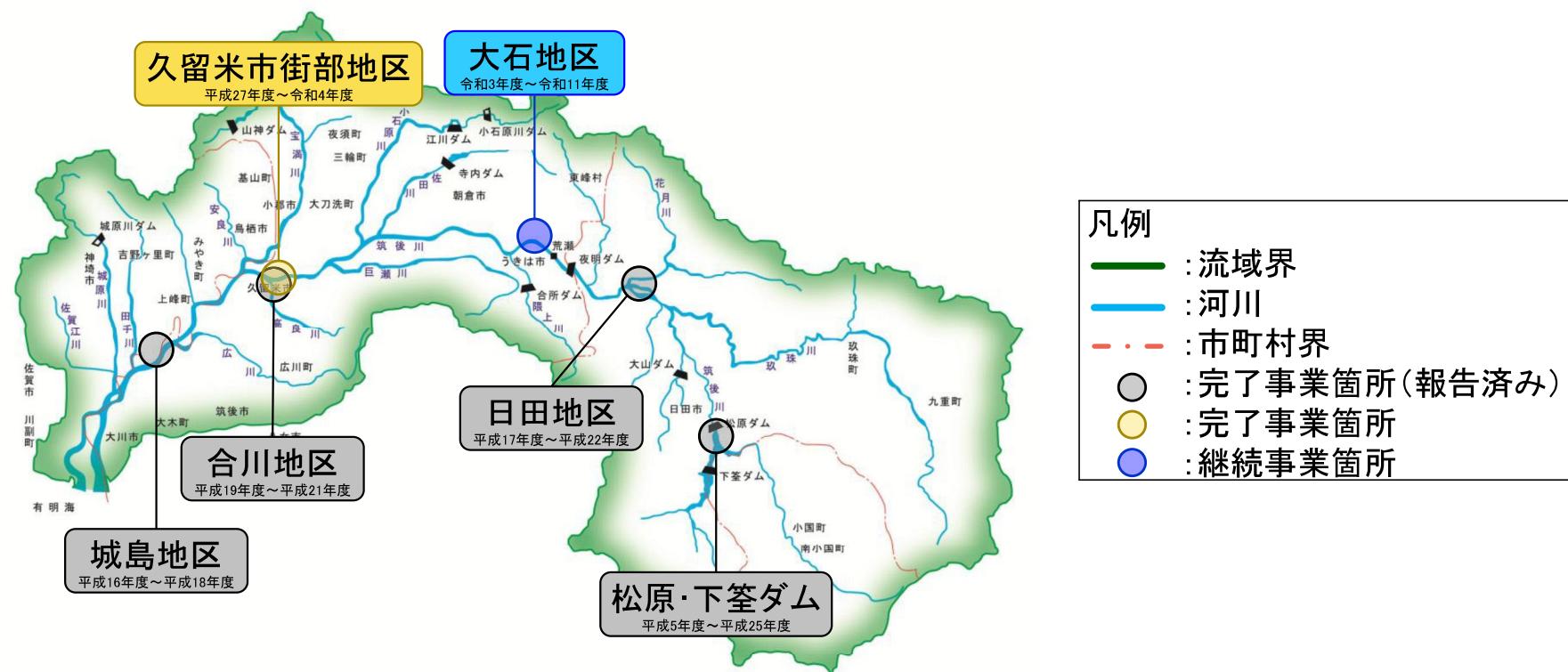
1. 事業の必要性

③事業の進捗状況

(1) 事業採択年・工事着手年

区分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	久留米市街部地区	平成27年度～令和4年度	完了箇所
	大石地区	令和3年度～令和11年度	継続箇所
筑後川総合水系環境整備事業		平成27年度～令和11年度	

※水環境整備(松原・下筌ダム)、水辺整備(城島地区、日田地区、合川地区) は完了評価済のため、今後の事業計画には含まないものとする。



1. 事業の必要性

③事業の進捗状況

(2) 事業の進捗状況/久留米市街部地区(完了箇所)

1) 事業の必要性

- 当該地区はリバーサイドパーク計画区域となっているものの、高水敷は雑草が繁茂しており、水辺へのアクセスに課題が見られることから、市民から安全に河川空間を利用できるよう整備を望まれている。



2) 事業の概要・目的

- 筑後川の広大な水辺空間を活かして地域の活性化や安全安心に寄与し、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、高水敷整正及び管理用通路の整備を実施する。

【概要】

位置	筑後川右岸 29k600 ~ 31k000付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路
事業費	約1.2億円
整備完了年	平成30年度
事業期間	平成27年度～令和4年度

【整備イメージ】



【工程表】

工種	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
高水敷整正								
管理用通路								
測量設計等					モニタリング調査等			

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

3) 事業の現状

- 平成27年度に事業に着手し、平成30年度に整備が完了し、令和4年度にモニタリング期間を終えた。
- 高水敷整正及び管理用通路の整備により、安全で多様な水辺の利用が可能となったことから、継続的な地域の活性化に資するとともに、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図ることが可能となっている。
- 令和元年度より、上記の整備を活用し、河川敷地占用許可準則第22による、都市・地域再生等利用区域の指定を目標とする実証実験を実施している。
- 整備完了後は久留米市及び地域住民により日常的な草刈りや清掃等の維持管理が行われており、地域の協力体制の下、今後も継続した維持管理が見込まれる。

⇒目的とした事業効果が発現されており、現時点において改善措置の必要性はない。令和4年度にて事業完了とする。



クリスマスライトアップイベント
(令和5年12月22～24日)



宮ノ陣筑後川防災キャンプ
(令和6年6月17日)



地域住民と活動団体による清掃活動

高水敷整正



整備前



整備前

管理用通路



整備後



整備後

整備による効果（日常的な地域の利用）



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(2) 事業の進捗状況/大石地区(継続箇所)

1) 事業の必要性

- 当該地区は、水際での散策、大石分水路でのスポーツや「凧あげ大会」などのイベント、筑後川での環境学習等に利用されているが、通路幅が狭く散策や水際へのアクセスが難しい箇所があり、また高水敷の凸凹によりイベントや学習等の安全な利用に課題が見られる。

2) 事業の概要・目的

- 「雄大な筑後川と温泉地等を活用した、世代・地域を超えてにぎわうまちづくり」と、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、管理用通路や高水敷整正等の整備を実施する。

【概要(当初計画)】

位置	筑後川 58k000～60k200付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、坂路等
事業費	約6.8億円
整備完了年	令和7年度
事業期間	令和3年度～令和12年度

【概要(今回評価時)】

位置	筑後川 58k000～60k200付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、坂路等
事業費	約5.7億円
整備完了年	令和6年度
事業期間	令和3年度～令和11年度

【工程表(当初計画)】

工種	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
管理用通路										
坂路										
高水敷整正										
測量設計等										

【工程表(今回評価時)】

工種	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
管理用通路										
坂路										
高水敷整正										
測量設計等										

工期一年短縮



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

3) 事業の現状

- 高水敷整正、管理用通路、坂路等の整備が行われ、安全で多様な水辺の利用が可能となったことから、継続的な地域の活性化に資するとともに、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図ることが可能となっている。
- 令和元年度より上記の整備を活用し、さらなる賑わい創出に向け、「大石かわまちづくり作業部会」や地元団体の企画のもと社会実験を実施し、今後の利活用の仕組みや、河川敷地占用許可準則第22による都市・地域再生等利用区域の指定の必要性を検討している。
- 整備対象箇所はうきは市が占用する予定であり、現在もうきは市及び地域住民により定期的な草刈りや清掃等の維持管理が行われていることから、地域の協力体制の下、整備完了後も継続した維持管理が見込まれる。



大石凧揚げ大会(令和6年1月28日)
(管理用通路を駐車場として活用)



うきは市と地域住民による清掃活動



整備による効果（周辺施設への観光客数の増加）



※筑後川温泉利用客数の推移

・令和2年度～令和6年度にかけて利用客数が約2倍となっている。
・筑後川とまちとが一体となった水辺空間の整備を進めることで、川の利用者の安全性、利便性が高まっており、また、地域住民や観光客に快適な空間を創出するとともに、新たな利活用メニューを提供することで、まちづくりの効果が期待できる。

2. 事業の進捗の見込み

(1) 事業の実施状況

- 事業名：筑後川総合水系環境整備事業
- 計画(整備内容)：久留米市街部地区(高水敷整正、管理用通路、モニタリング調査等)
大石地区(高水敷整正、管理用通路、坂路、モニタリング調査等)
- 総事業費：約7.0億円
- 事業期間：平成27年度から令和11年度
- 事業進捗率：約97.5%(事業費ベース)
- 残事業費：約0.2億円

(2) 今後の事業スケジュール

- 久留米市街部地区は、平成27年度に事業に着手し、平成30年度に高水敷整正及び管理用通路の整備を終え、令和4年度に事業が完了した。
- 大石地区は、令和3年度に事業に着手し、令和6年度に整備完了した(令和7年度～11年度モニタリング調査予定)。

(3) 今後の事業の進捗の見込み

- 久留米市街部地区は、地域主体のイベント等が開催される等、利活用や維持管理が行われていることから事業効果が発現されており、令和4年度にて事業完了とする。
- 大石地区は、平成30年度に設立された「大石かわまちづくり協議会」等により、整備箇所の利活用方法や維持管理の役割分担等について今後も議論していく予定であり、順調な進捗が見込まれる。

3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

(1)代替案の可能性の検討

- 大石地区の整備内容については、計画段階から「大石かわまちづくり協議会」において議論を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(2)コスト縮減の方策

- 地域が主体となった草刈りを試行する等、地域と協働の維持管理により、管理の効率化が期待されている。
- 近年の技術開発の進展に伴う、新たなモニタリング手法の採用によるコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。



地域住民・うきは市による草刈り(大石地区)



地域住民・活動団体による清掃活動(久留米市街部地区)

対応方針(原案)

- 久留米市街部地区では、平成26年8月から地域住民代表、久留米市、国土交通省が参加する「筑後川(宮ノ陣校区)かわまちづくり協議会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する議論を経て、イベント等の会場として利用されている。日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、久留米市により実施するものとされ、現在地域による清掃等が進められている。
- 大石地区では、平成30年11月から地域住民、うきは市、国土交通省が参加する「大石かわまちづくり協議会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する議論を経て、イベント等の会場として利用されている。日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、うきは市により実施するものとされ、現在地域による清掃等が進められている。
- 事業進捗率は、約97.5%(約6.8億円/約7.0億円)であり、令和11年度には事業完了予定である。
- 費用対効果(B/C)は、全体事業13.0、残事業3.4となっており、費用対効果についても高い事業である。
- 以上より、引き続き事業を継続することとしたい。